

アクセシビリティに関連する ICT利活用施策について

2011年3月16日

東洋大学

山田 肇

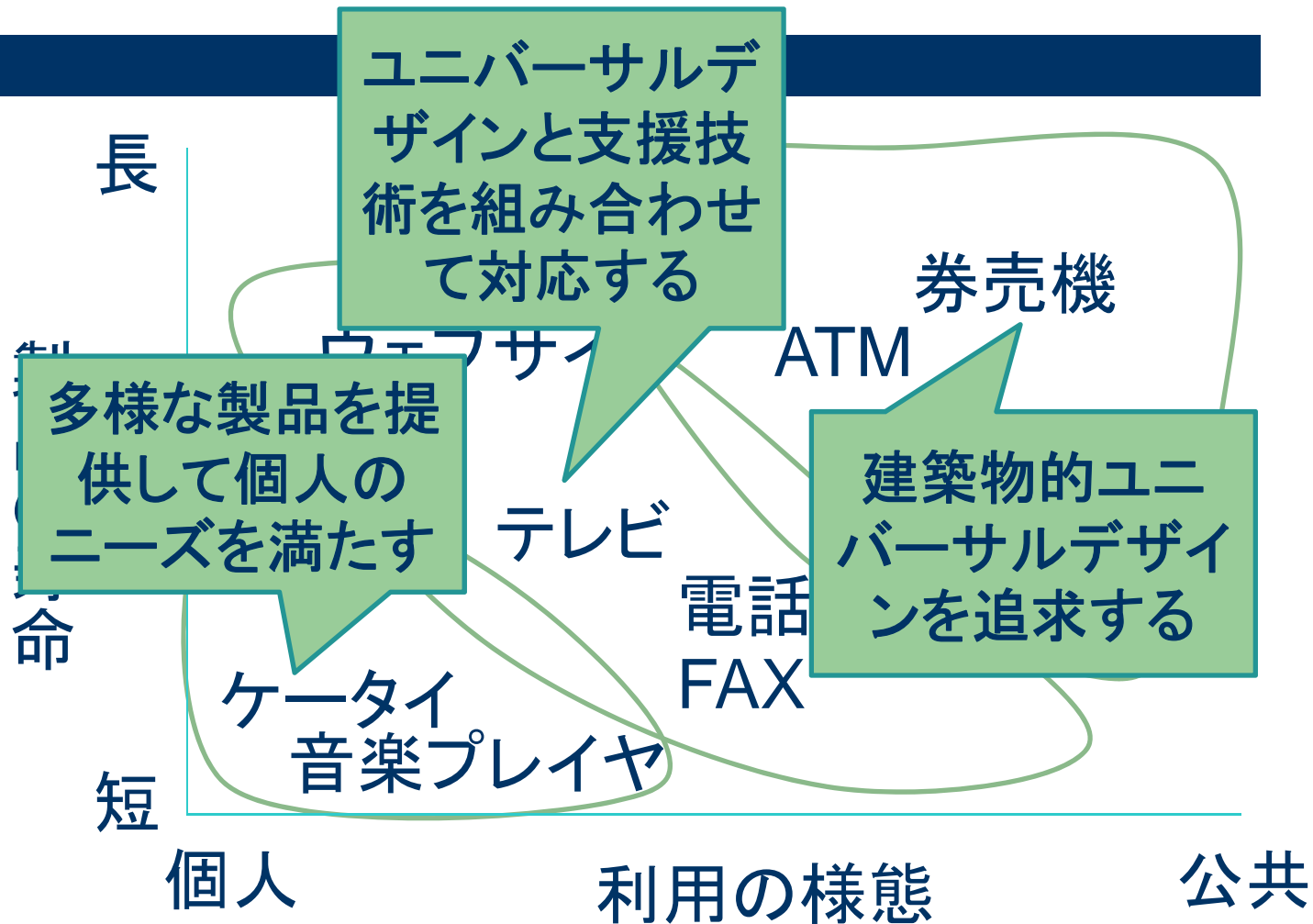
アクセシビリティを実現する方法

- 高齢者・障害者を含め多様な人々が参加する情報社会の実現にはアクセシビリティが不可欠
- アクセシビリティの実現には次のような方法
 - ユニバーサルデザイン: 文化・言語などの違い、年齢性別の差異、障害・能力の如何を問わず利用できる
 - ユニバーサルデザイン＋支援技術
 - 支援技術: 特定の障害に対応し支援する技術
- 支援技術重点よりもユニバーサルデザイン重視が大切

建築物とは違う

- ユニバーサルデザインを提唱したロナルド・メイスが建築家であったため、建築物でのデザイン条件をそのまま取り入れることに違和感を持つICT関係者が多い
- ICT分野ではユニバーサルデザインの「解釈」を変更するのが適切
- そのカギは「製品の多様性」

製品の多様性もユニバーサルデザイン



これまでの施策を見ると

- 支援技術への偏り
 - 代理電話サービス
 - 録音図書ネット配信
- 長期的に継続
 - テレビ字幕制作助成
- 継続すべきを中断
 - みんなの公共サイト
- 抜本的な見直しが必要

ユニバーサルデザインの発想で別の解決策に取り組むべき(後述)

番組制作あたりの助成金額が下がり、意義が薄れていないか？

ガイドラインを発行すればそれで終わりなのか？

ICT最大の特徴はメディア変換

- 利用者がアクセスできる形で情報を受発信することが肝要
- メディア変換が容易という情報の特徴に注目すべき
 - 日本語 ↔ 英語
 - 音声 ↔ テキスト
- 電話・図書・テレビといった既存サービス個々へのアクセシビリティ付加から、メディア変換を活用したユニバーサルデザインの追及に方向転換すべき

今後の方向

- 即応型(NICTの助成でも3年で実用化に目途の縛り)から、研究開発重視への移行
- メディア変換を活用したユニバーサルデザイン
 - 代理電話は音声認識・合成とテキスト入出力の組み合わせで「リアルタイムテキスト通信」に
 - 録音図書ネット配信は「電子書籍の読み上げ」に
 - テレビ字幕は「音声認識・テキスト付与」に。この場合テレビ局側で付与する必然性はない
- 施策の継続と中断に外部評価を導入(くわしくは別の発表で)

ATM・券売機でも新しい動きが

- 挿入するICカードに利用者のニーズを記録すれば、券売機やATM端末等に対応できる
 - 使用言語
 - 表示(色、文字サイズ、コントラスト、速度)
 - 音声(音量、周波数、速度)
 - 入力方法(キーボード、音声、携帯電話)
 - 出力方法(ディスプレイ、音声、点字)等
- 国際規格化(ISO/IEC 12905)が日本主導で進行中、普及促進施策が課題

預入

預入

預入

Deposit